

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年7月23日発行 No.78

『イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて、弟子たちに渡しては配らせ、二匹の魚も皆に分配された。すべての人が食べて満腹した。そして、パンの屑と魚の残りを集めると、十二の籠にいっぱいになった。パンを食べた人は男が五千人であった。』

(マルコによる福音書 第6章41~44節)

<お菓子やジュースが目当てと言う勿れ!! 命を大切にする KIU で献血活動が大盛り上がり!!>

先週半ばの18日水曜日、キャンパス内の2号館1Fホールには学生が長い列を作っていました。何だろう?と近づいてみると、それは学生会主催の献血キャンペーンでした!! 学内にも多くの看板やアピールが示され活動を盛り上げています。この日1日で、目標の100名を大きく上回る127名もの協力がありました!! 並んでいる学生にインタビューを敢行してみると面白い声が返って来ました。「ジュースやお菓子も嬉しいですが、私はリハビリ学部なので献血後のデータを詳しく見るようにしています。授業やテストで出てくるような単語もあって勉強になります。」(リハ学部2年女性)「僕は高校の時、交通事故にあって入院・手術を経験しました。その時献血に救われた事から『献血』の看板やアピールを見ると人事とは思えないんですね…。」(経済3年男性) KIUの取り組みは、その熱心さが献血協会からも高く評価されています(2年前には表彰も受けました!!)。この他にもDPLS部(防災救命クラブ)もボランティアや防災講習で地域の方々と交流を深めています。キリスト教を土台とし、命を大切にする KIU ならではの活動ですね!! 次回の献血キャンペーンは11月を予定しています。



チャペル前にも燦然と輝く赤い旗が



特に必要な血液型をアピール



受付には多くの学生が列を作る

<芽吹き始めた小さな活動…。火曜日の昼休みに聖歌隊が活動中!! 部員絶賛募集中です!!>

最近、火曜日の昼休みには美しい賛美の歌声がチャペルに響くようになりました。そう!! 聖歌隊の活動が復活したのです!! 以前はリハビリ学部生が中心で、4年生の臨床実習が始まると、実質的に活動が難しい状況が続いていました。しかし新年度、中国からの留学生を迎えて新しくスタート!! まだ人数は少ないですがこの取り組みから歌う楽しさが広がり、一人でも多くの参加者が集まると良いですね。クリスマスや卒業式・入学式でも賛美の奉仕ができるようになる事を願っています!! (^o^)/”マッテマース!!



チャペルもなんだか嬉しそう!?

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

7月16日(月) テーマ:「命の代償」

野間 光顕(チャプレン)

西日本を記録的豪雨が襲った朝、私は自宅でTVのニュースを観ていた。すると急に警報が鳴り「オウム教祖松本智津夫の死刑執行手続きを開始」というニュース速報が流れた。私はこの画面に強い違和感を覚えた。これまではいくら凶悪犯であっても、その一人の命を尊重し事前発表は行っていなかったはずだ。しかし、この速報には残念ながらそのような命への配慮が感じられなかった。またこの日全部で7件もの死刑が執行され、世界中から日本の人権意識に対する批判が多数上げられている。私たちが見上げるイエスの十字架は、この日本社会の中でそれぞれが持つ命をどのように扱うのか…?という問いを厳しく投げかけているように思う。

7月17日(火) テーマ:「分断の世界へ」

辻 正次(経済学部)

世界中が分断の方向に向かっている。先の大戦後、人類は持てる英知を積み重ねて「平等」「博愛」などの言葉を具現化しようと努力し続けてきた。しかしそれらは今日、大国の指導者がグローバル経済の旗の下、自国の利益や権力の最大化を求める自己中心的な生き方の中に巻き込まれてしまっている。この流れを分析する要素の一つとして「移民」を挙げる。人間を分断する溝のような格差の中で、貧者は生活の安定を求めて移動する。途上国民の生活の安定・保障がなければ、この動きは止まる事なく、その数は増え続けるだろう。分断を促進させる人がいる一方で、見返りのない働きに尽力する人もいる。これからの世界の動きに注視したい。

7月18日(水) テーマ:「合成生物の衝撃」

白砂 伸夫(経済学部)

地球誕生46億年の中で、生命が誕生したのが約40億年前、人間がサルから進化したのが50万年前。この点において、地球上の全ての動物はある意味親戚だと言える。しかし、現在そのような繋がりを越えた新しい生命の形を、人間がDNAを操作することで造り出せるようになった。複雑な研究による大きな成果ではあるが、同時にそこには当然リスクも存在している。世界の覇権を求めて、この研究に莫大な予算をつける指導者がいる一方で、本当にこのような研究が行われてもよいのか?という倫理的な疑問の声が上がっている。ノーベル文学賞に輝いたカズオ・イシグロの著書「私を離さないで」は、そのような研究が推し進められた近未来が舞台だ。改めて「人は神になれない、神になる事が赦されていない」という思いを抱いた時、KIUの建学の精神「神を畏れ 人を恐れず 人に仕えよ」の言葉の重みを想起させられる。

7月19日(木)

※この日は、今年度初めての「黙想礼拝」を行いました!! 私たちの心の中にある様々な思いや願い、それらを想起しながら静かに祈る…。 慌ただしい現代社会の中で、心休まる一時を大切にしたいと考えています。

7月20日(金) テーマ:「奪い合いの果てにあるもの」

野間 光顕(チャプレン)

最近注目されている漫画「ゴールデンカムイ」を紹介したい。北海道に眠る大量の金塊を求めて旅する青年とアイヌの少女の出会いを描いた物語だが、登場人物のクセがすごい(軍人や泥棒、詐欺師に武道家など)。舞台は、容赦なく人間を捻り潰す厳しい北の大自然を背景にサバイバルバトルが繰り広げられる。しかしそんな中、最も強く印象に残るのが少女が伝えるアイヌ文化の数々だ。命の危険と隣り合わせの状況で、厳しいが豊かな自然の力、また経験や知恵そして何よりも見えない大きな存在である神が、自分の命を守ってくれるよう願いを込める。現代社会は自然の力をコントロールしようとして、逆に大きな被害を被っている。今一度私たちは何が本当の幸せなのかを考える必要があるのではないだろうか。(文責:野間 光顕)